

2007

JULY 7 vol.22

東京成徳広報



東京成徳大学高等学校(別館高等部)の体育祭



学校法人 東京成徳学園

C O N T E N T S

P 3	学園の今後 理事長 木内 秀俊
P 4	人文学部から応用心理学部が独立
P 5	高等教育を考察 子ども学部 教授 永井 聖二 慶事 『ユニバーサル段階の高等教育』『山田佳栄子さん群馬県総合表彰受賞』 『寺田清美教授に子ども環境学会・活動奨励賞』 『水口前ビジネス心理科長に名誉教授の称号授与』
P 6	ひと『活躍する卒業生』 学校法人門戸学園 藤岡幼稚園園長 山田 佳栄子 社会福祉法人温光会 特別養護老人ホームみはま苑 副施設長 長谷川 豊
P 8	社会との交流 『四年目を迎えた「おにいさん・おねえさん子ども電話相談室」』 『大学院心理教育センター活動状況』
P 9	入進学情報 『大学実績の向上で受験者が急増！ 中高一貫部』 『国公立・難関私立大学への合格者大幅増加』
P 10	就職情報 就職課（八千代キャンパス） 学生生活課（十条台キャンパス）
P 11	TOPICS 大学院 大学人文学部 大学子ども学部 短期大学 中高一貫部 別館高等部 深谷高等学校 幼稚園 第二幼稚園
P 19	クラブ活動の成果
P 20	人事 （採用・昇任・異動・退職）
P 21	訃報・学園決算
P 22	学園役員改選
P 23	春の体育祭 幼稚園行事
P 24	入試情報・お問い合わせ先



TOKYO SEITOKU

学園のシンボルマーク
「理想」と「現実」を表す
ブルーの五本の柱は、五つの教育目標を
「活」と「動」を表した
イエローの三本の柱は、学生・生徒と
教職員・同窓生を象徴しています。
そして、八つの柱が一体となり、
東京成徳と学園に集う人々の
ヒューマンティールを
作り上げる姿を表現しています。



学園の次の時代にもむけて

理事長 木内 秀俊

さる五月末に学園の理事会・評議員会が開催され、鎌田正理事を始め長年学園に貢献された四人の理事・監事・評議員の方々が勇退されるとともに、新任の方々が選任されて今後三年間の学園の運営体制が整えられました。

この度勇退された方々のこれまでのご尽力に御礼申し上げます。

とりわけ鎌田先生は、短期大学副学長としてその人格識見をもって教育研究面で貢献されるとともに、三十一年の長きにわたり学園理事を勤められて十条台キャンパスの拡充・発展にも多大な寄与をなされ、深甚なる感謝を捧げたいと思います。

今回学園外から学識経験者枠の理事としてお迎えしたのは、成蹊大学の中里明彦文学部学部長と東京工業大学大学院の渡辺千仞教授で、学園の知恵袋・ご意見番として大いに期待いたしております。

さて学園は、現在大学院・大学・短期大学からなる高等教育部門、高校・中学からなる中等教育部門、幼稚園で構成される幼児教育部門の三つの部門で教育（研究）活動を展開しています。

平成五年に東京成徳大学が設立されて以来、故木内四郎兵衛前理事長の下で「学園の共学化推進」、「高等教育の拡大・充実」、「中等教育段階における進学校化」などの課題をもって、少子化が進展する中で規模の調整を伴いつつ現在に至っております。課題到達状況は平成十九年五月現在で、学園の学生・生徒などの男子比率が約三十八％になり着実に共学化は進展しました。部門別の課題達成状況をみると、中等教育部門は「進学校化」及び「共学化」が着実に進み募集も安定化しつつあり、学習および課外活動の両面での活性化が達成されています。幼児教育部

門も大学・短期大学とも連携した教育を行いつつ、地域と密接・良好な関係を築いております。

一方高等教育部門では四十年を超える歴史を持つ短期大学は現在も幼児教育科を中心に社会の根強い支持を得ているものの、この十年ほどは少子化や四年制大学志向の高まりなどもあって順次規模縮小を余儀なくされています。また大学は、平成五年に設置され十四年の時を刻みました。平成十年に大学院心理学研究科の設置がなされ、現在多くの臨床心理士資格取得者を輩出しています。

さらに平成十六年には二番目の学部として「子ども学部」の発足があり、内容充実面で着実な歩みをしていきます。ここで高等教育を取り巻く環境は、二〇〇七年にはいわゆる「全入時代」を迎えており、大変厳しい環境の下にあります。したが、学園は高等教育部門を今後さらに質量ともに内容充実を図るべき分野と考え対応していく所存です。

学園の今後を展望すると、近年高等学校を終えて直ちに社会に出る者が極めて少なくなり、就職など社会との直接的な接点は高等教育部門が担うようになっていきます。これを踏まえて高等教育部門

では、社会のニーズに応える分野を、適切な名称・規模で順次充実させて行きたいと考えております。

すでに平成二十年度からは人文学部を人文学部と応用心理学部に改組することを届出中であります。

また短期大学のビジネス心理科を、平成二十一年度に経営系の四年制大学の学部として改組転換する検討が始められております。

規模的には比較的中小の大学としてその良さを活かすと共に「社会のニーズ」「多様化する進路選択」に対応した分野の拡充を行って、多分野を持つ大学にして行きたいと考えます。

また中等教育部門と幼児教育部門は現在の方向性の下でさらに充実を図っていく所存です。

こうした積み重ねの中で学園の財政基盤を新しい時代にふさわしく確立し、学園の組織運営レベルをさらに向上したいと考えます。

最後に私学として「建学の精神」を堅持して現代に活かす努力が社会から今こそ求められていると強く感じております。関係各位の皆様が学園に対するご支援・ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

人文学部から

応用心理学部が独立

本学は平成五年四月、千葉県八千代市の緑豊かな高台に十二・五ヘクタールという広大なキャンパスを新設して開学しました。本年四月には早くも第十五期生の入学者を迎えております。

学園の建学の精神を基に、新たな教育目標として「コミュニケーションの追求」「共生の精神」を掲げてスタートした人文学部は日本語・日本文化学科、英語・英米文化学科、福祉心理学の三科で構成されていきました。平成十年に大学院心理学研究科を開設。平成十二年には臨床心理学を増設、平成十三年に日本語・日本文化学科、英語・英米文化学科を改組し、日本伝統文化学科、国際言語文化学科を設置し現在に至っております。平成十五年に大学院博士後期課程を開設。さらに平成十六年には東京都北区十条台キャンパスに本学として二つ目の学部、子ども学部を開設しています。

少子化が進み、私学を取り巻く環境がますます厳しくなってきた中で、本学は二度にわたるカリキュラム改定をはじめ魅力ある大学づくりを目標として、さまざまな改革を実施してまいりました。



國分学部長・教授

現在人文学部の中に設置されている福祉心理学及び臨床心理学かの二学科をカウンセリングマインド・福祉マインドの応用を目指す新学部として分離して設置し、教育・研究の発展・充実を目指すことを企図いたしました。

高齢化が進んでいる現在、福祉の充実が急務です。深刻な社会問題が多発し、社会的に弱い立場にいる人たちを含め、さまざまな人がさまざまな現場で心の問題に直面しています。心の諸問題への対応スキルと援助スキルとを習得し、「心のプロ」として社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

新学部の名称は応用心理学部です。また従来の人文学部は日本伝統学科と国際言語学科の二学科及び共通領域で構成することになります。

設置は平成二十年四月の予定です。応用心理学部の学部長は現在臨床心理学科長市村操一教授が予定されています。

従来の人文学部長國分康孝教授は副学長に、人文学部長には日山紀彦教授、図書館長は川合治男教授の予定です。

東京成徳大学は、これからも時代のニーズを先取りし、進化して行きます。



市村学科長・教授

学園後援会総会開催される。

六月二十三日(土)十一時三〇分より高等学校本館において学園後援会総会が開催されました。

佐々木富也後援会長はじめ、各地から集まられた後援会の方々、学園側からは木内秀俊理事長・木内秀樹常務理事が出席しました。

総会の議事は滞りなく進行し、平成十九年度の新体制も佐々木富也会長以下役員が選任されました。



左から司会の遠藤副会長、下山顧問、佐々木会長、木内理事長、木内常務理事

総会終了後、「観光の魅力、十条北区から世界へ」と題して短期大学教授で旅行作家としても活躍中の秋山秀一教授が講演、十条のPRにはじまり、ご自分の体験に基づくと世界各国のユニークな話題を紹介し、来場者の笑いを誘う軽妙洒落なお話して好評を博しました。

昼食後は会員の方々が各自の近況を報告され、懇親を深めておられました。学校単位の後援会とは別に大学から幼稚園までの後援会の方々が一同に会するケースは珍しいと、この会合を楽しみにされている方が多いようです。

尚学園後援会に関するお問い合わせは学園法人事務局までお願いします。

(☎〇三―三九一―二四二)



ユニバーサル段階の高等教育

子ども学部教授 永井 聖一



NHKのドラマ「おしん」は、発展途上国を中心として海外四十九ヶ国で放映され、人気を博したという。

そのシーンに、貧しさ故に学校に通えぬ少女時代のおしんが、窓の外から小学校の授業を見つめる姿があった。

同じ年代の子どもたちが歌う唱歌を、校舎の外で聴き入る子守りのおしん。揺籃期のわが国の学校制度の背景には、学校への憧れを抱きつつも生活苦のなかで就学を断念した多くのおしんの存在があったことであろう。

時は移って、今日私たちは、後期中等教育（高校）進学者が九十五%を超え、高等教育（大学・短大）進学者も五十%を超えるという、空前の教育氾濫の状況のもとにいる。おしんのような子どもたち、若者たちが少なくなつたのは結構だが、反面で多くの不本意就学者の存在が、現代の学校のさまざまな病理をもたらし

ている。豊かさのアイロニーのなかで、自明であつた学習への動機づけが失われ、学校は、その新たなあり方を模索することを迫られる。

高等教育について言えば、かつてマーチン・トロウ博士は、在学率が十五%までのエリート段階、五十%までのマス段階、それを超えるユニバーサル段階の三段階にその発展段階を区分してそれぞれの課題を論じたのだが、既にマス段階の高等教育において、在学者の多様化が旧来の大学観、大学組織との齟齬をもたらすと指摘される。

マス段階を超えてユニバーサル段階に入ったわが大学が直面する課題は多いが、とりわけ在学者の学習への動機づけをい

かに維持、開発することができるとは、喫緊の課題であろう。選抜の課題としてはもちろんだが、非選抜型を含む多くの大学では、大学教育のアウトプットとしてこれを検証する視点も必要である。

今日の大学は、学習への動機づけを前提とするばかりでなく、その開発をも課題とする。平凡だが重要なこの原理に思いをはせるとき、FDへの取り組みや、それを支える教員間のコミュニケーションの活性化の必要性が痛感される。

右の高等教育論の泰斗マーチン・トロウ博士は、今年二月に逝去されたが、日本の大学は、そして私たちは、慧眼の先駆者の指摘をどう生かせるのか。そんなことを考えている昨今である。

マーチン・トロウ (Martin Trow) アメリカの教育社会学者、高等教育研究の世界的権威者として知られています。コロンビア大学で博士号を取得。

コロンビア大学を経て、一九五七年よりカルフォルニア大学バークレイ校の公共政策大学院教授・国立教育研究所客員研究員として活躍。平成十年七月に来日され博士を囲む会が催されました。(一九二六―二〇〇七)

泰山↓泰山北斗 山東省の泰安県の北にある中国五岳の一つである泰山と北天の大熊座にあり、古来これによって時を測つたという北斗星、転じてその道で最も世に仰ぎ尊ばれる人のことをいう。

MEMO 高等教育への進歩

主要先進国の高等教育進歩率は、イギリス 六〇・〇%（二〇〇〇年）日本 四九・九%（二〇〇四年）アメリカ 四七・〇%（一九九八年）フランス 四一・〇%（一九九八年）ドイツ 三〇・七%（一九九九年）統計の年度が異なるのでいちがいに比較はできませんが、日本の高等教育進歩率は少子化の影響で年々高まる傾向にあります。

山田佳栄子さん

群馬県総合表彰受賞



短期大学三期生の藤岡幼稚園園長山田佳栄子さんが五月三日付で県総合表彰を受賞され、五月十五日群馬会館ホールで小寺

弘之知事から表彰されました。幼児教育一筋に取り組んでこられ、群馬県私立幼稚園協会理事としての実績や、藤岡市私立幼稚園協会を設立された実績が高く評価され「私学教育功労」として受賞の栄に輝かれました。

山田さんはこの喜びを「因らずも受賞いたしました。今まで私学功労賞に該当された皆さまは偉大な功績を残されましたので、あらためて賞の重みを感じています。今後は本園のみならず、群馬県全体の幼児教育のために専心職務に努力したい」と語られています。

短大幼児教育科長の中田カヨ子教授は、学生時代の山田さんの印象が鮮明で以下のようにコメントしてくださいました。明るく元気が声が大きく、寮生でしたので、他学科の学生とも付き合いが良く面倒見がよかったです。

寮では昼食は出していないでしたが「幼稚園の教育（実習）の期間だけは非昼食を用意して欲しい」と児玉科長を通して、学監の木内四郎兵衛先生にお願いして、特別に認めていただいた。

こういう実行力・学生を代表する統率力が今の園長としての仕事の基になつている。心からお祝いを申しあげたい。



寺田清美教授に

子ども環境学会・活動奨励賞



短大の寺田清美教授が子ども環境学会（会長は東京工業大学大学院仙田満教授）より活動奨励賞を受賞。さる四月二十

八日、横浜市開港記念会館で表彰されました。

寺田教授は「あかちゃんとのふれあい体験」支援事業企画委員、日本経団連「地域振興活性化委員」など幅広く活躍、審査委員長の白梅大学副学長汐見裕幸教授もその優れた実践を高く評価されています。

寺田教授はこの受賞について「私は生徒と母親・地域・学校をつなぐ単なるコーディネーター役。もの言わぬ赤ちゃんこそが先生です。赤ちゃんを真ん中に、地域の輪が広がることを願っています。」と今後の活動に意欲を燃やされています。（関連記事十六ページ参照）

水口前ビジネス心理科長に

名誉教授の称号授与



本年三月に東京成徳短期大学を退任された水口禮治前ビジネス心理科長・教授に対し、五月二十六日の理事会で東京成徳短期大学名誉教授の称号が授与されました。

昭和五十五年に文学博士の学位を取得されています。立教大学教授、帝京大学教授を経て、平成十三年四月ビジネス心理科開設以来六年間、科長を務められました。

ひと

活躍する卒業生

「真の子育ての楽しさ」を 多くの人に実感してもらいたい。

山田 佳栄子



生活発表会で園児に絵本を読んであげる筆者

一、東京成徳短期大学在学中に強く印象に残っていたらっしやることは。

入学式終了後、先生方、学生、参加保護者が一同に集まり「御頭付きの可愛い鯛の塩焼き入りのお赤飯弁当をいただいたことから、家庭的な心の行き届いた学園で安心した・・・」と親たちが感激していたこと。

翌日から始まった幼児教育科の

授業は午前九時から午後四時過ぎまで、理論と実技で終日休みなし。先生方の講義も専門的で興味深く、多くの学生が目的を持って真面目に取り組んでいた。

私が二年間生活した、北区王子の桐蔭寮では、夕食後、幼児教育科の寮生が屋上に集まり、ドタバタと、天野蝶先生の「幼児リトミック」の練習を重ね月曜日の講義に備えていた。この体験が就職してから現場でこれほど活かせるとは・・・ほかには在学中に学んだこと全てが、自分の子育てや、幼児教育の仕事の基となっている。

二、幼児教育を志された動機は、そして今のご心境は。

近隣地域に幼児教育の場がなく、その必要性を強く感じていた祖父が、昭和五年九月に群馬県の認可を受け、私の母の一生の仕事として、藤岡幼稚園を設立。十九歳になるその母は、昔も今も幼児教育の大切さを説き、七〇年余の永きにわたり幼児教育に携わつ

てきました。その姿を見て育った私は、幼い頃から「幼稚園の先生になりたい」との夢を持ち続け、その夢が実現して現在に至っているのです。

子ども達と共に、泣いたり、笑ったり、悩んだり、無我夢中で過ごした二十代。自らの子育てと両立をさせながら、少しずつ保育の楽しみが実感できた三十代。自分なりに「こんな幼児教育をしてみたい」との目標を掲げ、悪戦苦闘しながらも、子ども達と喜びを共感し、充実していた四十代・・・

そして今園長になって、その責任の重さと社会情勢の変化に戸惑いつつも”子ども一人ひとりの個性・特性を大切に受けとめること”を念頭に置いて、日々の保育に取り組んでいます。

その傍ら、社団法人群馬県私立幼稚園協会の理事に就任し、総務部や経営振興部で采配を振るい、「第一回群馬県私立幼稚園フェスティバル」の開催にあたつてその手腕を大いに発揮しました。また地元の藤岡市私立幼稚園協会の設立に奔走し、初代会長に就任。

会長としての立場から、藤岡市役所の中に子育てに関する総合的な機能をもつ「子ども課」の設置に尽力し、実現にこぎつけました。非常に多忙な毎日ですが、子どもたちの元気な笑顔やつぶやきに囲まれた生活が、私の心の栄養となり、エネルギーになっていること

を幸せに思う毎日です。

幼稚園、家庭、そして社会の中で、親子がともに成長する姿を見守りながら「真の子育ての楽しさ」をより多くの人々に実感してもらいたいと願いつつ、これからも幼児教育に日々邁進したいと思っています。

三、後輩へのメッセージをひとつ。

社会に出てから思うこと・・・私が東京成徳で学んだことに、無駄なことは何もありません。仕事に、家庭に、自分磨きに生きていきます。

卒業記念品に「人間として、こころを大切にすることの基」を頂戴し、今も宝物にしています。

時々人に分けてあげてもなくならないから不思議です。

この宝物は「私たち」あるものではなく、学生時代の生活そのものであり、幼児教育科で学んだこと全てが、宝物の基になっているのです。この事が、今までの幼児教育の現場や自分の子育てに生きていることを実感し「東京成徳学園から頂いた価値ある卒業記念品」と思つて大切にしています。この卒業記念品と現場での実践がミックスされ、「あたたかいこころ」が次々と生まれるので、いつまでも自分の中に残っていくのです。

(学校法人門戸学園藤岡幼稚園園長

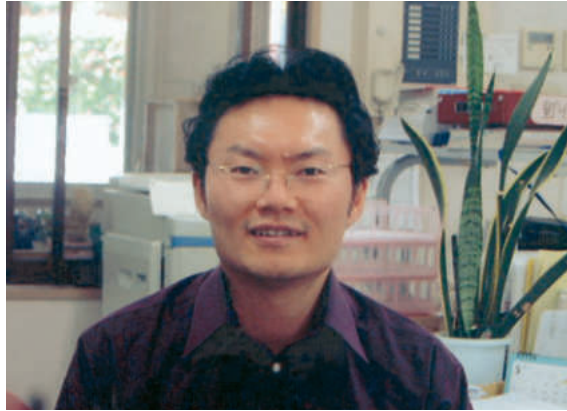
短大幼児教育科一期生)

ひと

活躍する卒業生

職員に働きやすい環境をつくり、モチベーションをもっともらじか。

長谷川 豊



大学での四年間

私にとって東京成徳大学は二つ目の大学であり、入学した時の年齢はたしか二十六才、きつと周囲には異星人のように映っていたことでしょう。こんな私が言うのもなんですが、東京成徳大学ではユニークな個性、経歴の友人たちとたくさん出会うことができました。当時、現実社会に遅しく適応

して行く多くの友人を見てきましたが、東京成徳大学で出会った彼らは、一般的な現代の若者の枠にはあてはまらない、どこか素朴で、ある部分自分自身にとってギリギリの状態を経験してきているようでした。

そんな彼らと出会えたことが一番よかったことでしょうか。

現在のお仕事を志された動機は家業（幼稚園と特養の複合施設）を告ぐためです。そのために専門的な福祉について学びたいと東京成徳大学に進んだわけですが、結局二度目の楽しい学生生活を送ってしまいました。

今、最も力を注いでおられることは

現在の仕事の中心は人事管理です。今、高齢者福祉の分野では介護職の不足がとりあげられていますが、私も切実に感じているところです。施設という組織の中でいかに職員に働きやすい環境をつくり、モチベーションをもっともらじうかがこの問題を解決する上で重

要だと考えています。また、みはま苑では知的障害、精神障害の方も就労しています。彼らが社会保険の適用を受けながら仕事を続けて行くにはジョブコーチ等の援助が欠かせません。このような人々との関係性づくりも施設として大切であると考えています。

後輩へのメッセージ

東京成徳大学の先生方はとてもすばらしい経歴の先生方ばかりです。実は、私がこの大学を選んだ理由もここにあります。在学しているときにはなかなか気づきませんが、先生方とできる限り関わりをもつてたくさんの方の心を吸収してください。みなさんの心がけひとつで新しい世界が開けるかもしれません。頑張ってください。

（社会福祉法人 温光会
特別養護老人ホームみはま苑副施設長
福祉心理学科五期生）

MEMO

介護老人福祉施設

（特別養護老人ホーム）
常時介護が必要で、自立が困難な六十五歳以上の高齢者が、日常生活上、必要な介護を受けられる施設です。介護保険導入後は、利用資格は要介護の認定を受けた方となりました。しかし施設不足の為、入所はかなり困難なようです。

MEMO

世界で初めて高齢者が20%を超えた日本2006年9月、わが国の六十五歳以上の人口が二千六百四十万人となり総人口の20.7%となりました。従来はイタリアの19.7%が世界で一番高齢者の比率が高い国でした。

第一次ベビーブームといわれた一九四七年～一九四九年にかけて出生された約八百万人が六十五歳を迎えられる頃には高齢者の比率が25%を超える見込みです。

一九六八年（ひのえうま）の出生数は百三十六万人と戦後最低でした。第二次ベビーブームの一九七三年の出生者二百九万人以降、減少を続け、最近は一百万人前後となり、出生率が大幅に低下し人口が減少する、人口高齢化が加速すると心配されました。

ようやく二〇〇六年に僅かながら出生率は回復しましたが、未婚率の上昇、平均初婚年齢の上昇など懸念材料も多く予断は許されない状況です。
高齢者対策はますます重要且つ深刻な社会問題となつてきています。

○丙午（ひのえうま）丙午の干支の年には火災が多く発生し、また丙午生まれの女性は夫を殺すという迷信があったため出生率が低下した。

社会との交流

四年目を迎えた
「おにいさん・おねえさん
子ども電話相談室」

本学人文学部がある千葉県八千代市では、平成十一年三月に八千代市子どもにやさしいまちづくりプランを策定し、施策を推進してきました。その施策の一つとして、子どもたちの意見表明の機会として「おにいさん・おねえさん子ども電話相談」が平成十六年五月にスタートしました。行政機関と高等教育機関が連携した子どもを対象とした電話相談事業は、全国で初めての試みとして注目を浴びてきました。

本学人文学部福祉心理学科・臨床心



「少年自然の家」で宿泊研修

理学科の学生が相談員として八千代市長に委嘱され、ボランティアで電話に應對しています。相談員は年度を通して月曜日から金曜日までの十五時半

(平成十八年度までは十五時)から十七時まで、八千代市役所子ども部元氣子ども課子ども相談センター内で相談にあたっていきます。本学は「地域に密着した研究・教育機関としての大学を創造すること」を目的に、平成十六年より学内プロジェクトとして本事業に関する研究を採用し、現在にいたるまで推奨してきました。この研究プロジェクトでは、事業に関する報告・検討と評価を行うことのみならず、相談員の専門性を高めるための研修会についての検討、相談員の心理的成長に関する調査、相談員が主体となって作成するマニュアルづくりなどを進めてきました。また、年間を通じて行われる本



学研究プロジェクトメンバーと八千代市当局との打ち合わせを通して、子どもが気軽に相談できる体制を当局と共に模索してきました。

今年度は、電話相談のスーパージャー(同プロジェクトメンバー・教員)と相談員の信頼関係の構築、相談活動のスムーズな運営、より柔軟な相談活動への参加のための契機となるよう初めの試みいくつか行う予定です。既に行った試みの一つは、八千代市教育委員会の協力と特段の配慮で実現した、八千代市少年自然の家での宿泊研修です。スーパージャーと本年度の相談員のうち十五名が参加し、グループ討議で腹藏のない意見交換を行い研鑽につとめました。相談員たちもいろいろな人たちと触れ合い、討議することで、自己の考え方が広がり成長を続けているようです。二つ目は、六月に開催されたスーパージャー企画の相談員への慰労を込めた食事会です。食事会には國分人文学部長も参加し、相談員と歓談しました。相談員をつとめる学生は、リラックした場で色々な話をし、焼き肉をもりもり食し、心身ともにパワーアップしたようです。

このプロジェクトでは平成十七年度より研究報告書を作成し、八千代市の関係職員・子ども人権ネットワーク委員、市内の学校などに配付しています。研究・教育機関として地域に提言を発信していくことも肝要だと考えています。

大学院心理教育センター活動状況

当センターでは乳幼児から成人の方々まで、幅広くみなさまのご相談を受け付けております。

北区ないはもとより、都内全域から相談にこられ、平成十八年度は七五〇件のご相談をお受けしました。

相談の内容は様々ですが、子どもの相談では学習上の問題や進路の悩み、発達の遅れや不登校まで多岐に渡っています。成人の相談では、対人関係、性格の問題、気分に関する悩みが多くなっています。また夫婦の問題、家庭環境や仕事上の問題を相談される方もいらっしゃいました。

相談は本学大学院臨床心理学担当の教員と、本学大学院生が担当し、時には学校や公共施設、医療機関とも連携しながら、日々努力を怠らず真摯に臨床活動に励んでいます。

相談は有料で、一回五〇分(初回のみ九〇分)です。(学園関係者の方は初回が一五〇〇円、二回目以降は一〇〇〇円です。)

電話受付時間は月曜日～土曜日の午前十時～午後七時(土曜日は午後六時まで)となっております。

お困りの方が折られましたら、学園関係者を問わず、どうぞお気軽にご相談ください。

大学院心理・教育相談センター

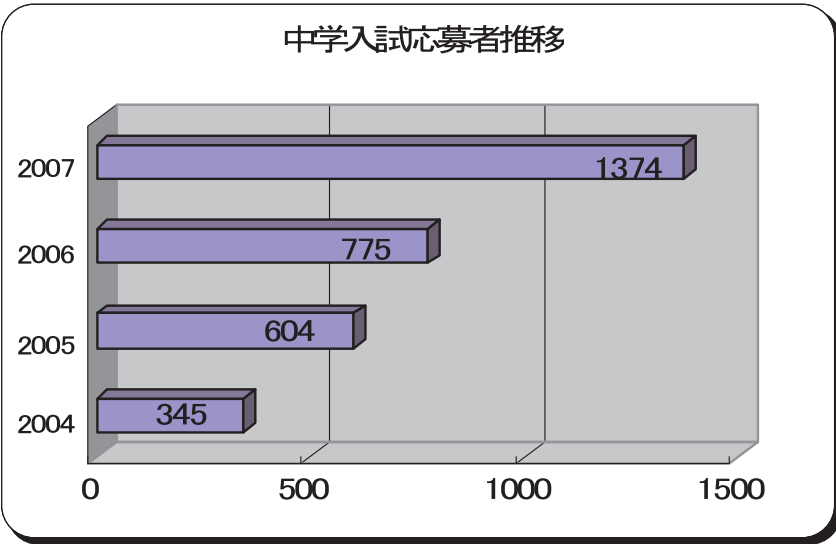
電話〇三―三九二七―四一一七(直通)

大学実績の向上で

受験者が急増！ 中高一貫部

中学入試の応募者数が年々増加傾向にある。特に本年度は昨年度応募者数に対して一・七七倍という応募者総数となり、受験生にとっては厳しい入試となった。受験生増加の要因として、年々進学実績が向上し昨年には完全中高一貫生の卒業とともに早慶上理・MARCHの合格実績を大きく伸ばすことができたことに起因している。また、受験生の保護者に関心が高まったものの中で、本校が独自で実施している「自分を深める学習」という心の教育を取り上げた授業を展開していること。さらに、中学一・二年で取り組んでいる土曜日のサタデープログラムがあり、興味関心に応じて履修できるシステムにより、個々の勉強に対する取り組みを向上させることができることなどが、学校説明会終了

後のアンケート調査結果からも読み取れる。授業時数の確保は勿論であるが、勉強に向かう姿勢を培う内容を盛り入れた教育が保護者に受け入れられたものと分析している。



難関大学へ続々合格

東京都北区の高等学校、埼玉県深谷市の深谷高等学校はいち早く時代のニーズを先取りし、男女共学化・各コースの改定・独自の進学対策プロジェクトなどを打ち出してきました。東京校の中・高一貫部も受験用の実力養成だけでなく、充実した中・高の六年間を過ごさせたいという意図に基づくものです。

指導方針「なぜ学ぶか」を問ひかける。

(高等学校)

本校では、生徒の三年後、六年後を見据えて、的確な進学指導を行っています。

中学校における「サタデープログラム」や中学校・高等学校での「自分を深める学習」など一方通行の指導でなく、生徒の成長段階に応じた自己発見・啓発の機会を提供しています。これにより生徒は目的意識を明確に持ち、一人ひとりの合格率を高めています。過去三年間、難関大学合格実績が着実に伸び、国公立・難関私立大学合格率も四〇%を超えて安定してきています。

今後の進学状況が大いに期待されます。

本校独自の「合格プロジェクト」

(深谷高等学校)

この本校独自の教育システムは「特進選抜コース」「特進コース」「進学選抜コース」で実施しています。

- 一、授業進度計画 三年間で何をどう学習し、どう進めていくか。
- 二、習熟度チェック 短いサイクルで生徒の理解度をチェックし、確認。
- 三、学習診断 生徒一人ひとりの学習のバランスをグラフ化、学習方針を示す。

さらにサテライト授業、有名予備校講師の特別授業などでフォローしています

平成十八年度 大学合格実績 (抜粋)

■国公立大学

東京学芸大学、千葉大学、東京芸術大学、横浜国立大学など十六大学に合せて二七名が合格。(東京校)

東京学芸大学、群馬大学、大阪教育大学など七大学へ八名が合格。(深谷高)

■難関私立大学

早稲田大学、上智大学、東京理科大学などへ四一名、GMARCHへは七六名が合格。関西の関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学には十一名が合格しています。(東京校)

慶應義塾大学、津田塾大学、東京理科大学などへ四名、GMARCHへは一七名が合格。日・東・駒・専へは五一名が合格しています。(深谷高)

MEMO

GMARCH 最近学習院が加わり、明治、青山学院、立教、中央、法政、六つの大学の略称となっています。

就職情報

【八千代キャンパス】

就職課長 伊藤 盛嗣

順風で求人票も二〇%増加
 今年の就職戦線は、昨年度からの流れを引き継ぎ、景気の回復と団塊世代の大量退職などを背景として、大学生に対する求人倍率は二・一倍と、平成三年以来十六年ぶりに二倍台を回復しています。学生にとっては、今年も順風が吹く中での就職活動となっています。

本学へ送られてくる求人票も、昨年より更に二割程増加しています。この様な状況を反映して、四年生の就職内定状況は昨年より良い状況の走りとなっています。

現時点の学生の進路志望状況は、進学希望者が増加し、就職希望者の割合が若干減少しています。また、就職希望者の中では、福祉関係の希望者が減少し、民間企業が増加しています。

就職戦線は、第一ラウンドを終了し、中小企業を中心に第二ラウンドが進行中です。秋からは福祉施設の採用が本格化します。就職課では希望者全員の内定獲得に向けて、学生に対する声かけに努めています。



▲人文学部 就職課のみなさん 中央は就職部長の玉川教授

キャリアアップ特別講座がスタート

昨年来準備中であった「キャリアアップ特別講座」が、三月からの保護者への広報や学生への説明会を経てスタートしました。

この講座は、学生の皆さんが充実した人生を生きるためのキャリア教育の一環として、安い費用で資格取得や大学院進学・公務員試験へチャレンジできるよう、大学が支援する外部講師による講座です。

四月からは、臨床心理系大学院進学、旅行業務取扱管理者国家試験、公務員試験を目指すための各対策特別講座が始まりました。各講座とも予想を上回る多くの学生が参加し、毎週土曜日の午後などの時間に熱心に勉強に取り組んでいます。

夏休み以降、保育士試験、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験、日本語能力検定試験、を目指す三つの対策特別講座が新たなスタートです。さらに、多くの学生の参加を期待しています。



▲キャリア支援プログラムのポスター

【十条台キャンパス】

学生生活課長 溝田 一夫

子ども学部の就職状況
 今年度初めての卒業生を出す子ども学部では三年生前期から就職ガイダンスを開始。後期からは、幼稚園、一般企業など進路希望別に実践的な就職ガイダンスを行っております。

教職員が協力して、一般企業就職希望者のために、子供服、玩具・ゲーム、子供教育、児童書出版業界などを中心に企業開拓を行っており、既に子供服、玩具、子供教育などの業界や郵政民営化後の各事業会社に内々定を得ています。幼稚園・保育園・児童福祉施設は秋口から就職活動が本格化します。

九月からは前期に引き続き、学生の志望進路により二つのコースに分けて、毎週水曜日教員がきめ細かい進路支援活動を行う予定です。

- A コース (公立小学校・幼稚園)
- B コース (私立幼稚園・保育園)
- C コース (一般企業)



▲十条台 学生生活課のみなさん

短期大学の就職状況

平成十八年度短期大学の就職内定率は、言語文化コミュニケーション科九〇%、ビジネス心理科九八%、幼児教育科は一〇〇%となりました。

今年度の一般就職状況も昨年度に引き続き好調に推移しております。

夏休み中には「ビジネス能力検定三級夏季講座」「国内旅行業務取扱管理者夏季講座」「公務員対策講座」などが予定されています。

幼稚園・保育園・児童福祉施設は例年秋口から就職活動が本格化しますが、動きの早まりも見られます。

本学では一般企業希望者、保育系就職希望者に対して、教職員一丸となり、一年生後期から就職ガイダンスを行うと共に、学生一人ひとりに対してきめ細かく進路支援を行っています。

原則として毎週水曜日と木曜日に定期的な就職支援活動を行い、学生の実力向上に努めています。



▲マナー講座

大学院
博士後期課程に中国からの国費留学生が入学！



▲入学式で力強く決意表明

期課程四名、計三十名の新入生を代表して本学大学院に入学できた喜びと今後の抱負を流暢な日本語で述べました。最後に中国語で「一緒にがんばりましょう！」と中国同胞の学部留学生に呼びかけると会場から大きな拍手が起こりました。

昨年十月、文部科学省の国費留学生として来日された許艶鳳さんが、二月四日（日）に実施された博士後期課程入学試験に見事合格されました。許さんは中国福建師範大学卒業後、埼玉大学教育学研究科修士課程において修士号を取得されており、今回が二度目の来日となりました。

許さんは現在、指導教員の杉原一昭教授の研究指導のもと、修士論文「家族と子育てをめぐる信念に関する中日比較研究」のテーマのもとに博士論文の構想を練り上げております。

四月五日（木）八千代キャンパスにおいて挙行された入学式において、修士課程二十六名（内七名は本学人文学部卒業生）、博士後

長年にわたり一人っ子政策を採ってきた中国と近年急速に少子化が進む日本——両国を比較し子どもの心の発達や教育に関する問題等について博士論文の作成準備に懸命な毎日を送っています。その真剣で謙虚な研鑽の様子は院生全員の模範となっております。

大学院
平成十八年度大学院修了式 三名が博士号を取得

平成十九年三月二十三日（金）に本学高等学校ヴェリタスホールにおいて大学院修了式が挙行され、木内秀俊学長から三名の方々に「博士（心理学）」の学位記が

授与されました。博士号を見事に取得された木村真人氏に博士論文の紹介と苦労話を、指導教員杉原一昭教授からのコメントを紹介いたします。

私は、平成十九年三月二十三日、「大学生の学生相談に対する被援助志向性とその規定因」という論文で東京成徳大学より博士（心理学）の学位を授与されました。

「被援助志向性」とは人が他者に援助を求めるかどうかについての意識や態度のことです。実際に学生相談活動に携わる中で、問題を抱えながらも他者に援助を求めることができない学生、あるいは

学生相談室を利用したいと感じながらも実際に来室できない学生が多いことに気づき、学生相談室がより利用しやすい相談機関であるためには何が必要なのかという問題意識から本研究はスタートしました。

本研究の結果、学生相談機関に対する認知度や相談機関の名称や提供するサービス形態および周囲の人々の学生相談利用に対する肯定的な態度・意識や利用の勧めなどが被援助志向性に強く影響していることが明らかになりました。

研究を進める中で、研究の方向性を見失いかけたり、モチベーションを維持できなかつたりといくつもの壁にぶつかりました。そのようなときにはいつも指導教員の杉原一昭先生をはじめ研究科の先生方から様々な形でサポートしていただきました。論文執筆にあたっては、研究成果をいかに実践

に結び付けていくか、複数の研究からなる論文を一つのストーリーとしてどのように描いていくのかなど、具体的にご指導いただきました。そして何より実際の先生方の研究や臨床実践に取り組み姿勢から非常に多くのことを見て学びそして伝えていただきました。

もちろん本研究で全てが明らかとなったわけではなく、多くの課題も明らかになりました。学位取得をゴールではなく新たなスタートとして、一人でも多くの大学生がより充実した学生生活を送ることができ

るようこれからも「学生相談」をテーマに研究と臨床実践を続けていき



▲大学院修了式で博士号を取得された3名

たいと思っています。指導教員杉原一昭教授のコメント「木村氏は本学の福祉心理学科助手として多忙な勤務をしながら研究を進め、論文を書き上げました。質問紙調査だけでは平凡な研究になるところ、努力して半構造化面接を行い、質の高い論文にまとめました。」

大学院

臨床心理士試験に修了生三十名が晴れて合格！

平成十八年度(財)日本臨床心理士資格認定協会が実施した臨床心理士資格認定試験に本大学院修了生が挑戦し、堂々三十名が合格を果たしました。この内、平成十七年度修了生は二十八名が受験、二十一名が合格、合格率七十五%

の見事な成績でした。

本大学院は同財団法人から臨床心理士受験資格一種指定校の認定を受けているため大学院修了後、実習経験を経ないで臨床心理士の受験資格が与えられます。

箱根で修論構想発表会

大学院一年生を中心に三月四日(日)～五日(月)の一泊二日、箱根高原ホテルで合宿研修が行われ、修士論文の構想発表会が開催されました。四日の午後二時から

疑問答を交わし、修士論文を作成する上で貴重な助言、指導を受けました。

研修室に張られたポスターを囲んで、院生と教員同士が熱心に討論を重ねました。夕食時の懇親会では懇談に花が咲き、院生同士や教員との交流が図られ、成功のうちに終了しました。この交流事業に対して、ご支援を賜った翠樟会に対し厚くお礼を申し上げます。三月の構想発表会に引き続き、修了二年生は五月十二日(土)午後一時から、二班に分かれて、口頭発表形式による「第一回修士論文中間発表会」が王子の大学院校舎において開催されました。院生は各自発表の後、教員と熱心に質

修士論文の作成はこれからがよいよ本番を迎えます。二年生は医療機関等での外部実習の傍ら、十月十三日(土)の「第二回修士論文中間発表会」をめざし、資料収集にアンケート調査に暑い夏を必死で頑張っています。



▲箱庭治療(サンドプレイ)

人文学部

福祉先進国での真摯な研修

多大な成果で達成感を味わう。

福祉心理学科 准教授 石田 祥代

東京成徳大学二〇〇六年度北欧・スウェーデン福祉先進国研修旅行は、「福祉先進国で高齢社会と少子化を考える!!!」をテーマに、一連の研修(年度を通して行われた五回にわたる事前オリエンテーション・二〇〇七年二月二六日～三月五日までの研修旅行、事後報告)を終えました。事前オリエンテーションでの学習、充実したプログラム内容、素晴らしい研修生が揃い、たいへん充実した研修となりました。

事前オリエンテーションでは、高齢社会と少子化についての研修生からの報告、ビデオを通じた理念や現状についての理解、スウェーデンの風習と人々についての学習に加え、スウェーデン語・英会話も取り入れ、さらに、玉川先生から空港・機内でのマナーについて講話をいただきました。このような学習は、研修生一人ひとりが自身のテーマを見出す機会となり、かつ、モチベーションの促進につながったようです。さらに、研修・見学中に積極的に掘り下げた質問を投げかける、講義の後に

英語を使ってお礼を述べる、機内での他のお客様に迷惑をかけない、などといった研修生の行動にも結びつきました。

研修旅行プログラム内容は、講義(スウェーデンの社会福祉制度・スウェーデンの高齢化社会・子どもと青少年の社会福祉)、見学(ルンド大学・高齢者特別住居・保育所四カ所・小学校・特別支援学校・余暇活動センター・スヌーズレン)、討論(マルメ教育大学で「子どもと青少年の社会」をテーマに)、交流(ルンド大学生・マルメ教育大学生)、観光(マルメ・ルンド・コペンハーゲン)で構成し、研修生たちが発表する場(高齢者特別住居とルンド大学での日本と東京成徳大学の紹介)も設定しました。研修中は夕方から

フリータイムだったため、研修生は買物をしたり、ルンド大学のサークル活動に参加したり、現地学生とホテルでさらに交流したりと楽しんだようです。プログラム修了日には、スウェーディッシュヘルスケア社主催のさよならパーティーがあり、引率教員も含め研修生了書をいただき、達成感を味わいました。

今回の研修で我々教員が感心し

事前オリエンテーションでは、高齢社会と少子化についての研修生からの報告、ビデオを通じた理念や現状についての理解、スウェーデンの風習と人々についての学習に加え、スウェーデン語・英会話も取り入れ、さらに、玉川先生から空港・機内でのマナーについて講話をいただきました。このような学習は、研修生一人ひとりが自身のテーマを見出す機会となり、かつ、モチベーションの促進につながったようです。さらに、研修・見学中に積極的に掘り下げた質問を投げかける、講義の後に



▲研修修了証をいただいた笑顔



たのはなんととっても研修生の研修に臨む姿勢の素晴らしさで、学科をこえて学生同士が友情を培い協働していた姿が印象的です。研修生主体で、浅草・原爆ドームや大学の写真をまとめスウェーデンで紹介する、フリータイムに翌日の研修準備をする、お世話になった通訳とスウェーデンシユヘルスケア社の方に研修員からのメッセージノートを渡す、研修後に研修報告書と写真をまとめるなど、各研修生が役割と責任を持ち研修に参加しました。あのような問題意識を持った学生たちとつと討論したかった、もつとスウェーデンの福祉心理現場のことを伝えたい、たという後日談をスウェーデン研修・見学先からいただき本学学生を誇りに思うとともに、我々も彼らから学んだという思いです！

福祉超先進国スウェーデン

国際言語文化学科教授 玉川恵子
私は学科が違う英語の教員だが

モチベーションが高まった研修

臨床心理学科三年 高地亜紀

研修前、私は福祉のことには興味が高かったのですが、研修を通じて福祉を身近に感じるようになりました。研修中見学した保育園は、大人の目が届き易いという印象を受けました。その証拠に子どもたちは安心して過ごしており、とても良い笑顔でした。今後はこのような保育所などの福祉現場にも心理士が必要とされる時代なので、もつと勉強し、現場で活躍できる人材になりたいとモチベーションが高まりました。

東京成徳大学高等学校出身(東京都)

スウェーデン福祉研修旅行に参加した。福祉とは国民全員に必要な行政施策の一部であるし、特に教育の現場にいる者にとって福祉に関する知識は、それが障害をもつ児童に関してであれ高齢者介護に関してであれ、同じ社会に住むものが感知しているべき常識の一部であるはずだと考えていたからだ。また、同じ大学の学生たちとの旅も嬉しいものだった。

研修に参加した結果、スウェーデンは福祉の先進国ではなく、「超」先進国であると納得した。それは、充実した設備に関しての羨望ではない。確かに、障害をもつ児童と健常児童が同じ敷地で教育を受けることのできる体制、介護者の身体を守る人体搬送機材その他が完備された高齢者施設などは羨ましい。

しかしそういうことにも増して感銘を受けたのは、福祉行政の根底にある「一つのケーキを分け合うとき、各人が必要な分だけ食べる」という考え方である。国家予算による支援が少ししか必要でない者もあれば、たくさん必要な者もいるだろう。更に、「自分が属する社



子ども学部

「ちびやんちびん」(リレー連載②)

子ども学科准教授 吉川好昭



会が全体的に良くなるのが大切である」という考え方である。これほど真の意味での「共生」という理想を実現している社会を目の当たりにしたことはない。少子化・高齢化の日本も、日本社会

に適した福祉行政を一日も早く実現することが急務であると痛感した旅となった。
素晴らしいプログラムであり、担当の石田祥代先生の企画力と指導力に敬意を表したい。

「法の不備が多くの無戸籍の子どもを輩出している」として社会問題となっている。民法七七二条二項には「婚姻の解消若しくは取消しの日から三〇〇日以内に生まれた子は、婚姻中に懐胎したものと推定する」とあり、離婚後、新たに配偶者を得ても、前婚の離婚から三〇〇日以内に出産すると、子どもは前夫の子として扱われることになっている。そして、そのことが戸籍に記載されると、「嫡出否認」や「親子関係不存在確認」の訴えを起こして解決を図ること

となる。多くの母親は、戸籍が汚れることや前夫とのトラブルを回避したいという心情から、出生の届け出を躊躇することが多い。その結果、文頭に記したように、多くの無戸籍の子どもを輩出しているとの指摘となる。これに対して、法務省は通達で「子が離婚後に懐胎したこと」を示す医師の証明書があれば、現夫の子として戸籍に記載するとした。しかし、実際には、離婚後の懐胎よりも前夫との離婚手続の以前に妊娠している事例が圧倒的に多いため、この通達の運用で救済されるのは全体の1割程度であり、全面的な解決には程遠いようである。子どもに関わる者は、こうした法の不備や家族間の紛争・葛藤の影響を受けて被害者となる子どもの存在を常に意識しておきたい。また、子どもも、そうした弱者としての子ども福祉を視野に入れておくべきであると痛感している。

子ども学部

これからの糧を学んだ幼稚園実習

子ども学部四年 渡辺拓也



今回行なった幼稚園での実習

は、自分にとって忘れられないものとなりました。実習期間中は一つの年長児クラスに入っていたのですが、そのクラスは昨年の実習の際に二日間だけ入ったクラスの持ち上がりでした。子ども達が自分のことを覚えてくれていたのだらうか、と若干の不安はありましたが、しかし、実際に子ども達に会って話を聞くと、ほぼ全員が覚えてくれていて、しかもその時に自分が披露した手遊びを覚えていた子どもたくさんいて、とても嬉しく思いました。その時に自分の存在や、指導したことが子ども達の中に生き続けている、ということを実感でき、感動しました。

そして、忘れられない理由のうち一つは責任実習で、多くの失敗をしたことです。子ども達は、新しいゲームを「楽しかった〜！」

と言ってくれたのですが、自身を振り返ってみると、導入や誘導、子どもへの説明など、自分自身の力不足を強く感じました。ですが逆に、大きな失敗をしたことにより、上手いといった時よりもその時のことが鮮明に自分の中に残り、これからの糧として活かしていけるのではないかと考えています。

今までいくつかの実習を行なってきましたが、今回ほど思い出深いです。そして、学んだことをこのときだけのものにするのではなく、子ども達の笑顔とともに今後に繋がるように心掛けていきたいと考えています。

県立朝霞高等学校出身(埼玉県)



短期大学

学びの三本柱

言語文化コミュニケーション科教授 樋口信夫

当科は観光・英語・日本文化を三本の学びの柱としています。それぞれの学生の元気な姿をトビックスとして紹介します。

一、まず、**観光**。政府の「観光立国」の方針もあり、近年、学びの場でも観光に対する関心が大きく高まりつつあります。旅行作家、ジャーナリストとして活躍する秋山秀一教授を中心として、当科はいちはやく観光教育に力を注いでまいりました。その一環として、本年より、学内での規定の単位を充足することにより、「観光ビジネス実務士」の資格を取得することが可能になりました。このためのカリキュラムの整理に伴い、観光系科目はより一層充実することになりました。「旅行業資格対策」という授業では国家資格である国内旅行業務取扱管理者の受験をサポートしています。極めて難関の試験ではありますが、昨

年秋一年生が二名合格するという快挙、両名とも早々と希望する企業から就職内定の通知を受けています。

二、**英語**。実生活、実社会で生かせる英語を身につけます。

「TOEIC演習」

では系統だったトレーニングがきめ細かく行われており、受講生の得点が着実にアップしています。四年生大学を含めてもトップクラスの八〇〇点を越す学生が現れ、意気軒昂です。またオーストラリア

三カ月、六カ月留学に参加する学生は、現地での英語生活にどっぷりつかることにより飛躍的な語学力の伸びを見せています。昨年は十二名が所期の目標を達成して帰国しました。今年

は十三名が増えています。暮れの名物行事になりつつあります。短歌、俳句、書道などのコンクール、展覧会への参加も盛んで、それぞれ良い成績を修めています。昨年に続き、今年度も読書書法展への入選者が出る

三、**日本文化**。毎年、十二月二十五日前後に、北区の小中高生を対象にして、毛筆書道講座「書き初め教室」を開催しています。指導は当科で「書道講座」を受講する学生が行っています。昨年は十六名の学生が約三十人の小中学生にほぼマンツーマンの熱心な指導がありました。年々リピーター



も増えて、暮れの名物行事になりつつあります。短歌、俳句、書道などのコンクール、展覧会への参加も盛んで、それぞれ良い成績を修めています。昨年に続き、今年度も読書書法展への入選者が出る

ことが期待されています。どの分野であっても、自信をつけておくことが肝要と考えています。その自信は好調な就職活動にもつながっています。

短期大学

フィールドワークとしての海外研修旅行

「ヨーロッパ地理の旅」
「アジア地理の旅」

言語文化コミュニケーション科教授 秋山秀一

人がどのようなところに住み、どのようなものを食べ、どのような暮らしをしているのか、広く世界に目を向け、実際にその土地に出かけ、自分の目で見ることの意義は大きい。世界には様々な国があり、それぞれに独自の価値観・生活スタイルがあつて、必ずしも、物事に対する価値観が同じというわけではない。

「異文化体験実践」としての旅を通して、直に肌で感じ、国際理解を深め、それぞれの国の素晴らしさを知る。新鮮な感動、発見もある。それに地理的なものが見方が加わる。「ヨーロッパ地理の旅」は二月下旬から三月上旬にかけて二十一年に渡って実施、「アジア地理の旅」は九月上旬に実施している。第一回目から一貫してルートの決定に始まって学生の指導引率に当たってきたのは、「観光」担当の秋山秀一教授である。

昨年度の「第二十一回ヨーロッパ地理の旅」の行き先は、ロンドンに三泊の後、ローマ、フイレンツェ、ピサを訪れ、モナコからニース、カンヌ、マルセイユ、アルル、アヴィニョンなどを回って、例年最後の訪問地となるパリに四泊した。一年生のときに国家資格「国内旅行業務取扱管理者」の試験に合格し



▲第21回 ヨーロッパ地理の旅 ローマ、フォロ・ロマーノにて

た後藤さんと、平井さんの二人も、この「ヨーロッパ地理の旅」に参加した。現地でも、とてもいい動きをしていた。帰国後二年生になった二人は、この旅から得た貴重な体験を就職活動にも活かして、後藤さんは旅行会社、平井さんは航空会社へと、ふたりそろって、早々に就職内定先が決まった。長く一般教養の一環として実施されてきたものが、ここに来て、観光を学ぶというはつきりとした目的をもった学生の一步踏み込んだフィールドワークを重視した旅へと、内容も変化してきた。今年には香港返還十周年の年に当ることから、この「アジア地理の旅」も、香港政府観光局の後援により実施することになった。今年度の「第二十二回ヨーロッパ地理の旅」はイタリア南部を中心に実施の予定である。

中高一貫部

中学、日帰りの校外学習

毎年生徒の自主性を尊重し、日帰りの郊外学習を実施しています。本年は、一年生が都内千代田区にある科学技術博物館、二年生は神奈川県に相模湖ビクニックランド、三年生は若者に大人気の鎌倉地区に行きました。三年生の報告をご紹介します。

自由と責任を

一緒に負う郊外学習

中学三年担任 塚田 洋文

心配されたお天気にも恵まれ、爽やかな一日の中、鎌倉郊外学習が行われました。今回の郊外学習は、六月に行われる「奈良・京都修学旅行」での班行動の練習という位置づけとしての意味合いも含まれていました。

チェックポイントは長谷寺、最終点呼場所が東京駅という二点だけ指定して、後の行程は全て班で決めるといふ「自由な」旅行です。しかし、いざ自由を任せられるとその不自由に困惑する班もありました。

自由と責任も一緒に負わなければいけないことに気づいたのでしよう。不自由さの中、一日を楽しく過ごすことが出来、どの班も達成感に満ち溢れていたように思えます。修学旅行では、今回の経験を生かして最高の思い出になるようにして欲しいと願っています。

二度の思い出

三年 石井孝明

今年の郊外学習は鎌倉だった。自分は学年委員として四月の二十日に下見に行った。下見では自分と同じ計画のルートだったもので、いろいろ見ることが多かった。その下見の中で一番楽しかったのは海にいったことだ。ビデオを録ったり、写真を撮ったりしてとても楽しかった。

そして郊外学習の日が来てしまった。一度行っただから大体のことは把握していたので計画通りになると思っていたが、予想以上に時間が空いたりして困ったことがあった。

今回の反省点はもう少しいろいろな所にいけばよかったと思うことが残念だったので、修学旅行ではこんなことがないようにしたい。(葛飾区立すげ小学校出身)



初めての鎌倉、貴重な体験

三年 渡辺 梓

今回私が行ったのは、長谷寺・高徳院(大仏)・鶴岡八幡宮・小町通りです。写経をしたり、大仏の中に入ってみたりと、貴重な体験ができました。

初めて鎌倉に行くということもあって、自分達で集合やルートを決め、その通りに行動するのは少し不安がありました。けれど、実際そうでもなく、多少予定より遅くなくてもそこは臨機応変に対応して、「あそこやめて向こうに行こう」と言いながらあっという間に一日が終わった気がします。

今日を通して、普段の学校生活では知らなかった面を一人ひとり見ることができました。次の修学旅行では今回良かったところを生かし、反省点は直して行動したいと思っています。(さいたま市立与野八幡小学校出身)



別館高等部

命の尊さや自己肯定感を学ぶ
赤ちゃんとのふれあい授業

この授業は、短期大学寺田教授の企画でスタートしました。進学コース幼児教育類型「発達と保育」の中で行われ、四年目を迎えています。五月二十八日の授業には寺田ゼミの学生も多数参加し真剣な面持ちで聴講していました。

赤ちゃんが先生

幼児教育科教授 寺田 清美



がつながってきています。そういった地域こそが子どもも大人もお互いに育みあえる健やかな地域社会といえるのではないのでしょうか。

赤ちゃんとふれあいが生み出す五つの力

- ①子ども時代に赤ちゃんに対する知識を会得する。
- ②赤ちゃんの生きる力を信じ、待つ姿勢が出てくる。
- ③赤ちゃんの行動から、生き方を学ぶ。
- ④愛着を感じるようになる。
- ⑤自己肯定感が育まれる。

このふれあい体験の企画を始めて十六年になります。この授業を続けるうちに、子どもたちは「命の尊さや自己肯定感」を学び、母親は「子育てへの自信を」、スタッフは「地域でのつながりの重要性」を感じ、それぞれが交流することの大切さを実感し、共感能力も高まっています。

担当して感じることは、生徒の表情の変化とコミュニケーション能力の高まりです。この授業は、関わるすべての人にさまざまな気づきをもたらしてくれます。生徒はもちろん、地域の人たちとの心

以上が、この授業を推進してきたい理由であり、「赤ちゃんが先生」ともいえる所以です。



笑顔に乾杯

別館高等部 教諭

水村 一恵



五月二十八日の授業には、生徒二ヶ月〜二歳までの乳幼児六人が参加してくれました。

生徒の感想をご紹介します

「月齢によりそれぞれの可愛さをもって居ます。笑うと笑いかえしてくれるのでとても嬉しく思い、本当に幸せな気持ちになりました。」
(飯野由香)

「二ヶ月の赤ちゃんはまだ首が据わって居ないため、抱いた時にはとても緊張しました。繊細で壊してしまいそうな気がしました。」
(須田麻友美)

「六ヶ月の赤ちゃんは表情が豊かで、笑った顔や不機嫌な顔がよくわかりました。一ヶ月後どの位成長しているか、今からとても楽しみです。」
(永澤沙知子)

赤ちゃんの成長を月日を追って体験的に学ぶことは、学習効果が高いと感じます。また、赤ちゃんの両親の話聞き、共に協力しあうことの大切さを知り、相手を思いやる心の成長も加えて、生徒たちの意識にも変化が見られます。

保育士や幼稚園教諭を目指す生徒対象の授業ですので、生徒の学習意欲はとて高くなっています。初回の授業では、戸惑っていた生徒も、体験を重ねていくことで、穏やかな表情に「変わり、次第に赤ちゃんとの距離が縮まっています。」
多くの人を笑顔に変える赤ちゃんの凄さに乾杯！



深谷高校

**新カリキュラムで、目標の大学を！
特進コースにE・A・MAクラスを新設**

本校では生徒の潜在能力を見出して伸ばすことに重点をおき、難関国立大学をめざす特進選抜コースをはじめ六コースを設定しています。

国立大学・難関私立大学をめざす特進コースは共学で三十名×二クラスの構成です。一年次は選択科目で、二年次からは将来の進路にあわせてコースでE・A・MAを選択し、得意科目を伸ばし、苦手科目は基礎を確立する習熟度学習で、目標達成に向け実力を蓄えます。目標校は国立の埼玉大学・群馬大学や私立では早稲田・慶応義塾・上智・GMARCHと呼ばれる大学を目指します。

E・A (English Advanced class)

このクラスは英語が週に二年次では九時間、三年次では十一時間もあります。文法・語法や読解の仕方を理解させ、国立大学の二次試験や難関私立大学の入試に対応できる力をつけていきます。

MA (Mathematics Advanced class)

このクラスは数学の授業が豊富なクラスです。いろいろな分野の問題をたくさん解き、数学力を鍛えていきます。理数に重点をおいていますので二年次では数学が九時間、理科が七時間（内四時間は物理か生物を選択）、三年次では数学が十一時間、理科が七時間（内四時間は選択）

これにより国立の二次試験対策、私立の上位校を目指す生徒の将来の進路に結びついた学びを実現します。

深谷高校

**新制服人気のブランド
OLIVE des OLIVE
を採用**

通学が一層楽しくなる！季節・気候にあわせて選べる多彩なパリエーション。知的な可愛さを持ち味で、今若者に人気のあるブランドOLIVE des OLIVEが採用されました。

生徒は自分の個性にあわせて自由な着こなしが楽しめます。



深谷高校

ホームページを全面改訂

受験生・保護者・地域社会の方々に必要な情報をわかりやすく検索できるようにホームページを一新しました。一度アクセスしてみてください。



深谷高校

**埼玉県で初の8強に
春季高校野球県大会**

東京・大阪・神奈川などと並んで、激戦地区の埼玉は百六十三校が参加し、屈指の強豪校が栄冠を目指して励んでいます。

春季大会に臨んだ本校野球部は四月三十日、三回戦で飯能南と対戦。投打がうまくかみ合い主将棚沢の二点本塁打でダメ押し、見事五―一で快勝しました。平成十年に野球部を創部以来、はじめて県のベスト8に進出。泉名先生の熱血指導の下、部員の士気も向上、夏の大会に向けて練習にも熱が入り、さらなる飛躍が期待されています。



▲主将棚沢が本塁打を打ち勇躍生還（埼玉新聞社提供）

深谷高校

**第六十一回関東大会に出場
女子バレーボール部**

六月二日・三日にかけて宇都宮市で五〇チームが参加して行われた関東高校大会には、埼玉県から上位六チームが参加しました。

はじめて関東大会に出場した本校チームは初戦で全国トップレベルの実力を誇る下北沢成徳と対戦。相手の強烈なサーブ、打点の高いスパイク、高いブロックの壁を破れず健闘も及ばず敗退しました。



鍛え上げたよいチームだけに、今後の活躍が期待されます。

幼稚園

移動動物園で貴重な体験

二月二十七日(火) 高等学校本館のグラウンドに珍しいお客様が大勢来訪しました。園児たちが楽しみにしていた移動動物園が開園されたのです。いつもは柵越しか、金網を隔ててしか見られない動物たちを間近に見て触ることもできるのです。

この日は可愛いヒヨコさん・兎さんはじめ亀さんやお猿さん、おとなしくて優しいヤギさん、羊さん、一寸怖そうだけれどイグアナやトカゲ、錦蛇などが島田動物舎からやってきました。

園児たちは三つのグループにわかれ、動物と触れ合う時の注意を

説明していただいた後、順に校庭の各所で園児を待っている動物たちとのふれあい体験をしました。こわごとヒヨコさんを両手で

そつと包み込む園児、亀さんの背中は硬いかたと触ってみました、ロープの端から端まで上手に綱渡りするリスザルに感心したり、怖そうなおじさんの説明を聞いたりしている内にアツという間に動物たちとのふれあいの時間は過ぎてしまいました。子ども達の心の中にはやさしい気持ち一杯あふれ、園児たちの貴重な体験の時でした。

幼稚園

楽しい潮干狩り

五月二十九日(火) 朝八時、六台の大型観光バスが学園本館前を出発、高速道路を疾走、潮干狩りの名所であるふなばし海浜公園をめざしました。

この日は年少組の親子一二七組が参加、みなさん小さな熊手やスコップを用意し、今日はたくさん採るよ!と張り切っていました。

東京湾に隣接した広大な海浜公園ではそれぞれの親子が自由に場所を選びアサリさんはどこかな?と一生懸命。貝が採れたよ!と嬉しそうに掲げる園児たち、園長先生

は幼稚園に持つて帰るのだと海水のなかで奮闘、小さなはぜや、やどかりなどを沢山とつてきてくださいました。

快晴に恵まれ、芝生の上で思い切り遊んだり、おかあさんの手作りのお弁当をおいしそうにいただき、楽しい一日を過ごしました。

今年のアサリは生育がよく、大きくて綺麗だったと参加者は大満足の様子でした。ボンゴレやあさりのお味噌汁等、どんな料理になったのでしょうか。



▲潮干狩り



▲移動動物園

第二幼稚園

力を合わせた作品展

恒例の三・四・五歳合作の作品は浦島太郎が竜宮城へ向う海の世界をイメージしました。

年長組は牛乳パックやつや紙を用いて、こども三十人くらい入れる大きな竜宮城と亀に乗った浦島太郎を紙粘土で作り、年長組らしい作品に仕上がりました。

年中組は玉手箱と、玉手箱を開けた浦島太郎が行った未来の世界にある乗り物を廃材を使って作りました。年少組は壁二面を使い、そこにはフィンガーペインティングで作った鯛やひらめなど、大小の魚を飾りました。子ども達は浦島太郎の物語を思い起こし、思い思いに表現を楽しみ、一生懸命活

動に取り組んでいました。何もないう状態からみなで力を合わせてひとつのものを作り上げた子ども達は、大きな喜びと達成感を味わうことができたでしょう。



▲作品展

第二幼稚園

高齢者との交流

卒園を間近に迎えた二月二十六日、年長組が与野ハウス陸会(高齢者の方の集い)からお招きをいただき、楽しいひと時を過ごしました。初めは子ども達も緊張の面持ちでしたが、手遊びや触れ合いゲームを行うにつれて、いつもの笑顔が戻り、はしゃぐ姿がみられました。

肩たたきのプレゼントを贈ると、本当の家族のように心を通わせることができ、みなさんとても嬉しそうでした。

和やかな雰囲気の中、地域のみなさまとの交流が深まり、子ども達も異世代の方との触れ合いを通して優しい心が一層深まったことと思います。



▲高齢者との交流

クラブ活動の成果

女子バスケットボール部 圧倒的な強さ、東京都関東大会予選優勝！ 大差で関東大会も優勝！



ラクロス部 U19日本代表として国際親善試合に3名出場

バレーボール部 (女子) 春季リーグ3位

剣道部 春季剣道大会兼関東大会団体東京都予選 ベスト8
関東大会予選リーグ2位

弓道部 関東大会東京都予選 男子団体4位



善戦する深谷高校（関東大会）

ソフトボール部 (男子) 関東大会東京都予選準優勝 北区大会優勝

バトントワリング部 第20回 関東バトントワリング・チームコンテスト
中級 Aチーム 金賞 初級 Bチーム 金賞

サッカー部 (深谷高校) U-17 埼玉県トップ4リーグ 第2位

吹奏楽部 (深谷高校) 管打楽器ソロコンテスト本選優秀賞 大塚友里

新聞部 (深谷高校) 第36回全国新聞コンクール 健闘賞

(野球部・女子バレーボール部はP17に掲載)



応援風景

職員		教 員															所 属																	
大学	第二幼	幼稚園			深谷高			高校・中学			短大			大学																				
採用	採用	異動	昇任	昇任	採用	採用	採用	採用	採用	採用	昇任	昇任	昇任	昇任	昇任	昇任	採用	採用	採用															
近田英昭	西野麻美	水島幸子	宮森民恵	鈴木育江	齊藤千春	三木康行	藤木範子	船津香住	赤沼佳幸	小沼一弘	小林康裕	松田高貴	桐内智典	伊藤俊樹	望月勉	宮下茂樹	松本純子	寺田清美	松坂被宣	富田真紀子	武石仁美	松井陽通	小畑千尋	堀江姿帆	西村昭徳	朝木永	岩瀬弘和	富田初代	玉川恵子	羽鳥健司	鎌田大輔	小野寺研一		
人文学部事務局長総務課	教諭	教諭	副主任	主任	助手	助手	教諭	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	教諭	別館教頭	幼児教育科教授	幼児教育科教授	ビジネス心理科助教	幼児教育科助教	ビジネス心理科助教	幼児教育科助教	ビジネス心理科主任教授	子ども学部子ども学科准教授	人文学部臨床心理学助教	人文学部臨床心理学助教	人文学部福祉心理学助教	人文学部共通領域部准教授	人文学部共通領域部教授	人文学部国際言語文化学科教授	人文学部臨床心理学科助教	人文学部福祉心理学科助教	人文学部福祉心理学科准教授	
短期大学専攻科平成十八年度卒	短期大学事務局長	短期大学事務局長	教諭	教諭	埼玉県立浦和商業高等学校平成十八年度卒	東洋大学平成十八年度卒	短期大学平成十八年度卒	奈良女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程修了	(株)埼玉新聞社	早稲田アカデミー講師	文皇芸術大学附属高校講師	千代田女学園講師	桐光学園非常勤講師	非常勤講師	専任講師	別館教頭代行	幼児教育科助教	幼児教育科助教	ビジネス心理科主任教授	子ども学部子ども学科准教授	東京福祉大学助教	茨城大学教授	東京家政大学教育講師	社会福祉法人 埼玉子ども生活研究所主任研究員	東京福祉大学助教	助手	助手	助手	講師	助教	助教	筑波大学大学院	東京成徳大学大学院博士後期課程修了	人文学部福祉心理学科非常勤講師

職 員		教 員										所 属												
深谷高	高校	短大	大学	第二幼	幼稚園		深谷高	中学	高校	短大	大学													
退職	退職	退職	退職	退職	退職	退職	退職	退職	退職	退職	退職	退職												
横山昌司	山口澄子	与安幸子	吉田憲史	毛利昭	山岸佳代	黒澤由紀	鈴木久美子	宮浦健太	田中沙織	山城麻子	望月みよ子	永吉秀司	永澤直樹	水口禮治	志民一成	木村真人	堀内ゆかり	堀井登志喜	龍野祐介	篠涼子	内田善浩	古山尚	相蘇英聡	中村朗
事務局長補佐	本館事務室事務	事務局教務課(総合事務室)	人文学部事務局総務課主任	人文学部事務局総務課主任	教諭	教諭	助手	助手	教諭	教諭	教諭	教諭	専任講師	ビジネス心理科長・教授	子ども学部講師	人文学部福祉心理学科助教	人文学部臨床心理学科助教	人文学部共通領域部教授	子ども学部事務局主任	子ども学部事務局(図書室)	子ども学部事務局	子ども学部事務局	人文学部教務課(広報及び入試担当)係長	人文学部教務課(広報及び入試担当)主任
一年	五十一年	三年	六年十一月	九年十一月	一年	四年	二年	三年	四年	十八年	三十六年	九年	三年	六年	七年六月	四年	三年	二年	短期大学専攻科平成十八年度卒	短期大学専攻科平成十八年度卒	短期大学専攻科平成十八年度卒	短期大学専攻科平成十八年度卒	短期大学専攻科平成十八年度卒	短期大学専攻科平成十八年度卒

職 員												所 属
第二幼	深谷高	高校	短大	大学								
採用	採用	採用	異動	採用	採用	異動	採用					
伊藤絵美	針谷光夫	前場梨紗	浅岡さおり	黒澤里香	手塚雅美	龍野祐介	篠涼子					
事務職	事務局長補佐	本館事務部事務	事務局学生生活課	事務局総務課	事務局教務課(総合事務室)	子ども学部事務局総務課	子ども学部事務局					
城北信用金庫	厚木市教育委員会	第二幼稚園事務職	短期大学専攻科平成十八年度卒	短期大学専攻科平成十八年度卒	短期大学専攻科平成十八年度卒	短期大学専攻科平成十八年度卒	短期大学専攻科平成十八年度卒					



有る程の菊投げ入れよ
棺の中

漱石

木内千恵子評議員は、平
成十九年一月二十二日午後三時五三分、
心不全のため永眠されました。
享年八十三。一月二十四日、二十五日
に上野公園、寛永寺輪王殿でしめやかに
行われた通夜・告別式には、七百人を超
す弔問客が故人との別れを惜しまれまし
た。
木内評議員は学園の創立者菅澤重雄先
生の孫として大正十三年、千葉県で出生。
県立千葉高等学校を卒業、日本女子
大学在学中に前理事長木内四郎兵衛先生
と結婚されました。
高等学校の建て替え前は、校舎の脇に
住まれ、身近で暖かく教職員・生徒を
ご指導されました。戦後六十年余にわた
り前理事長と共に東京成徳学園の発展に
生涯を捧げられました。
謹んでご冥福をお祈り申しあげます。

木内千恵子評議員 逝去

忘れられないきめ細かいご配慮

山口 澄子

前理事長先生の奥様とのご縁は昭和二
十九年三月、私が東京成徳高等学校卒業
の時からです。中・高の事務室に就職さ
せていただけました喜び、その時の暖か
い思いやりの言葉を忘れることはできま
せん。飛鳥山での運動会の朝、荷物をト
ラックに積み込み、その朝、荷物をトラ
ックに積み込み、その後お宅で朝食をご
馳走になりました。
美味しかった味噌汁の味、まさに奥様
の心のこもったものでした。入試時の食
事の支度も奥様が割烹着を掛け、全教職
員の朝食から夕食まで手づくりの食事を
つくってくださいました。食材にも工夫
をこらされ、その、気遣いは大変なこと
だったことと思います。
時には事務の仕事もお宅に持って帰ら
れ、昼夜に亘っての全力投球でした。
頭の下がる思いでいっぱいです。
今はお浄土へ旅立たれた「慈篤院妙室
千光大姉」様の生の御声を聞くことがで
きず、淋しい思いをしている今日この頃
です。



中央が木内評議員、右端 山口さん

学校法人東京成徳学園 平成18年度決算

資金収支計算書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位：千円)

収入の部	
科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	4,076,997
手数料収入	137,418
寄付金収入	60,057
補助金収入	1,510,274
資産運用収入	23,629
資産売却収入	57,880
事業収入	5,174
雑収入	97,294
借入金等収入	1,200
前受金収入	1,044,375
その他の収入	568,828
資金収入調整勘定	△1,304,476
前年度繰越支払資金	2,324,242
収入の部合計	8,602,892
支出の部	
科 目	金 額
人件費支出	3,673,474
教育研究経費支出	1,039,795
管理経費支出	366,120
借入金等利息支出	78,831
借入金等返済支出	278,170
施設関係支出	72,038
設備関係支出	118,673
資産運用支出	672,253
その他の支出	248,984
資金支出調整勘定	△124,777
次年度繰越支払資金	2,179,331
支出の部合計	8,602,892

消費収支計算書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位：千円)

消費収入の部	
科 目	金 額
学生生徒等納付金	4,076,997
手数料	137,418
寄付金	60,968
補助金	1,510,274
資産運用収入	23,629
資産売却差額	1,193
事業収入	5,174
雑収入	97,294
帰属収入合計	5,912,947
基本金組入額合計	△389,941
消費収入の部合計	5,523,006
消費支出の部	
科 目	金 額
人件費	3,675,269
教育研究経費	1,820,588
管理経費	454,546
借入金等利息	78,831
資産処分差額	259
徴収不能引当金繰入額	1,150
徴収不能額	9,429
消費支出の部合計	6,040,072
当年度消費支出超過額	517,066
前年度繰越消費支出超過額	4,677,319
翌年度繰越消費支出超過額	5,194,385

貸借対照表

(平成19年3月31日現在)

(単位：千円)

資産の部	
科 目	金 額
固定資産	46,439,397
有形固定資産	41,919,199
その他の固定資産	4,520,198
流動資産	2,539,323
資産の部合計	48,978,720
負債の部	
科 目	金 額
固定負債	1,171,425
流動負債	1,677,628
負債の部合計	2,849,053
基本金の部	
科 目	金 額
基本金	51,324,052
消費収支差額の部	
科 目	金 額
翌年度繰越消費支出超過額	5,194,385
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	48,978,720

学園新役員紹介

平成十九年五月二十六日に理事・監事・評議員が改選されました。

鎌田正理事・金澤巖監事・水口禮治評議員・橋本禮子評議員が退任され、新たに中里明彦氏、渡辺千仞氏が理事に、中田カヨ子氏、石山賢氏が評議員に就任されました。

役員構成は左の通りです。

- 理事長 木内秀俊
 - 常務理事 木内秀樹
 - 理事 大澤健
 - 理事 國分孝
 - 理事 黒田定男
 - 理事 佐々木富也
 - 理事 渡辺千仞
 - 理事 中里明彦
 - 監事 下山武士
 - 監事 黒崎康夫
 - 評議員 中島諄子
 - 評議員 中田カヨ子
 - 評議員 青木重
 - 評議員 石山賢
 - 評議員 津島節子
 - 評議員 三上令子
 - 評議員 深谷昌志
 - 評議員 杉原一昭
 - 評議員 菅澤喜八郎
- (○印の方は評議員も兼務です)



▲左から木内常務理事、金澤監事、鎌田理事、木内理事長、水口評議員、橋本評議員

渡辺千仞^{ちびる}理事



渡辺先生は昭和十九年生まれ、東京大学工学部都市工学科卒業。平成四年学術博士（東京大学）。埼玉大学教授・通産省工業技術院統括研究開発官・技術審議官を経て東京工業大学工学部教授・同大学院教授、同インスティテューショナル技術経営学研究センター長を務められ、平成十八年五月より本学園の評議員をされています。

中里明彦^{あきひこ}理事



中里先生は昭和十九年生まれ、東京大学大学院社会学研究科国際関係論専攻課程修士課程修了。

東京大学教養学部助手を経て成蹊大学文学部助教授・同教授、同国際交流センター所長、同情報処理センター所長を歴任され、現在同文学部長、文学研究科長をされています。

就任挨拶

若者に学びへの志と実行力を！

短大ヒジメス心理科長 松坂 毅^{たけし} 貫^{つらみ}



英字誌「TIME」の六月四日号に、「我々アメリカ人は多くの徳を備えている。よく働くし、革新的だし、……ちよつとせっかちだけだ。」という米政府高官の米中トレード・サミットについてのコメントがあった。

アメリカ流儀には徳が無い、と日頃思っていたのとても新鮮に感じた。

「徳を成すことが出来るように、との思いは、人類が共有する学びへの志」かもしれない。

しかし、「おらかな徳操」は、和語であり我々日本文化の本質のように思われる。

ビジネス心理科での学びをもとに、高潔な志と成し遂げる実行力を自ら育むような若者を送り出したい。時折、卒業生からメールが来たりして、武勇伝に聴き入り歓談の時を分かち合う喜びは何にも替え難い。

どうぞよろしくお願います。

※尚橋本禮子先生は言語文化コミュニケーション・センター科長・教授として引き続き勤務されます。



【深谷高校】



【十条台キャンパス】短期大学

体育祭



【別館】高等部



【中・高一貫部】



【深谷高校】



【深谷高校】

幼稚園行事



【幼稚園】新宿御苑の広い芝生でリレーの競争



【幼稚園】まあ！きれいなバラ！！新宿御苑



【第二幼稚園】父の日ふれ合い参観



【第二幼稚園】保護者といっしょにおにぎりをつくって楽しむ

お気軽に一度東京成徳のキャンパスへお越しください。
オープンキャンパス・学校説明会、入試日程などはホームページで詳細を。



八千代キャンパス 学生広場より教室棟を望む

学校法人 **東京成徳学園** <http://www.tokyoseitoku.ac.jp>

東京成徳大学大学大学院	http://www.tsu.ac.jp/gra (pc) office-gra@tsu.ac.jp (e-mail)	電話03-3927-4116
東京成徳大学	http://www.tsu.ac.jp (pc) http://www.tsu-mobile.com (携帯サイト)	
人文学部	八千代キャンパス入試・広報センター	電話047-488-1000 (直通)
子ども学部	十条台キャンパス入学課	電話03-3908-4566 (直通)
東京成徳短期大学	http://www.tsc.ac.jp 十条台キャンパス入学課	電話03-3908-4566 (直通)
東京成徳大学中学・高等学校	http://www.tokyoseitoku.ac.jp/tokyo-hs	
本館 (中・高一貫部)		電話03-3911-2786
別館 (高等部)		電話03-3908-5916
東京成徳大学深谷高等学校	http://www.tsfh.jp	電話048-571-1303
東京成徳短期大学附属幼稚園	http://www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind	電話03-3911-6337
東京成徳短期大学附属第二幼稚園	http://www.tokyoseitoku.ac.jp/y-kind	電話048-854-2151
東京成徳スイミングスクール		電話03-3941-2383
郊外施設戸隠グリーン		電話026-254-2662

学校法人 東京成徳学園
法人本部企画調査室

〒114-8526 東京都北区豊島8-26-9 TEL 03-3911-2411 FAX 03-3911-6500
東京成徳広報 第22号 平成19年7月発行